

50

地域医療連携パス（5大がん）使用件数

自院

指標の意義

地域医療連携パスとは、がん診療連携拠点病院と地域の医療機関等との間で、双方の役割分担や診療計画表（医療者用・患者用）を用いて、がん患者さんに対する一連の診療の流れを体系化したものをいいます。

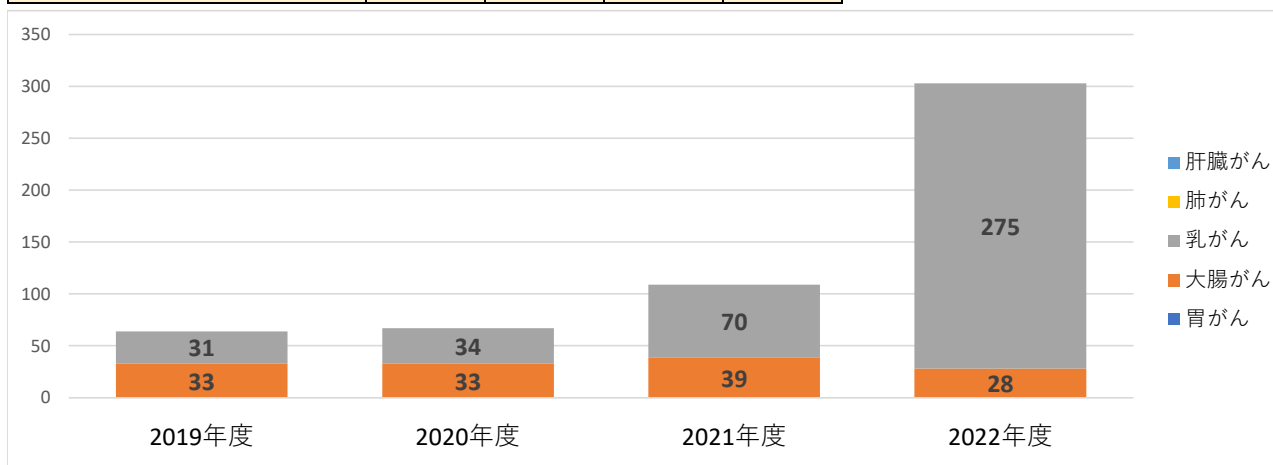
当院では、5大がん（胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、肝臓がん）の地域連携パスを地域の医師会や連携医療機関と協議して策定しました。これにより、がん診療における地域医療連携を促進し、がん医療の質の保証と安全の確保を図る上での指標になります。

定義

5大がん（胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、肝臓がん）の術後患者に対し、「がん治療連携計画策定料」を算定した患者数

当院の実績

| | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|
| 胃がん | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 大腸がん | 33 | 33 | 39 | 28 |
| 乳がん | 31 | 34 | 70 | 275 |
| 肺がん | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 肝臓がん | 0 | 0 | 0 | 0 |
| がん治療連携計画策定料算定件数 | 64 | 67 | 110 | 303 |



指標の説明

導入当初（2011年より運用開始）は5大がんすべてのパスを作成していますが、それぞれの疾病の特徴や当院での治験参加の状況等により、現在は主として乳がん、大腸がんを中心に適応しています。特に乳がんは罹患者数の増加とホルモン剤等の長期投与を要す治療が多く、地域連携パスの導入により地域で治療を継続できるというメリットがあります。2021年度より適応対象を拡大し運用を開始しました。2022年度は運用が定着したことにより前年比は約4倍の連携実績となりました。

今後は県内遠方や県外の連携医療機関を増やすよう努めます。

指標の意義

入退院支援加算は、患者さんが安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、施設間の連携を推進した上で、入院早期より退院困難な要因を有する患者さんを抽出し入退院支援を実施するものです。

入院早期より院内外が多職種が協働して、患者さんの在宅療養に積極的に介入しているかを見る指標としています。

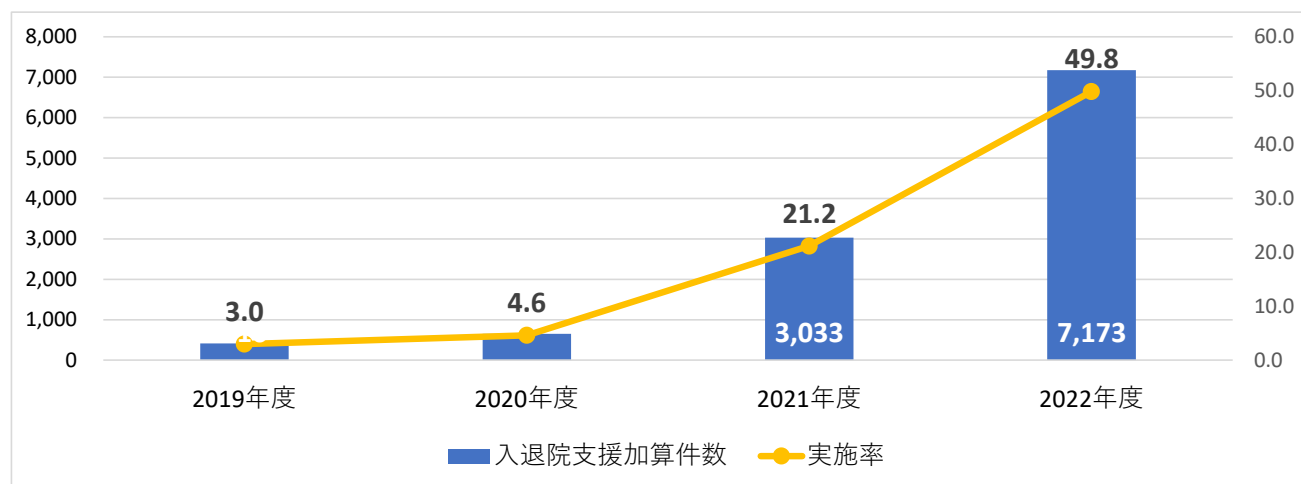
定義

分子 入退院支援加算件数 × 100

分母 退院患者数（死亡退院は含まない）

当院の実績

| | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 入退院支援加算件数 | 416 | 648 | 3,033 | 7,173 | (件) |
| 退院患者数 | 13,993 | 14,075 | 14,320 | 14,390 | |
| 実施率 | 3.0 | 4.6 | 21.2 | 49.8 | (%) |



指標の説明

在宅転院支援室は、看護師12人、MSW2人で、退院が困難な患者さんの支援を実施しています。2021年度から入退院支援加算件数が急増しているのは、病棟看護師が実施した退院指導を2020年度まで含めていなかったことによるものです。2022年度からは全入院患者を対象に、入院早期から多職種と退院支援について協議する等の退院調整の体制が整ったことや病棟看護師が実施した退院指導を勧め、退院調整の対象を広げています。